

2022年6月～2023年3月

1 研究会設置経過と趣旨

二宮町小中一貫教育推進計画（令和4年4月策定）に基づき、施設一体型小中一貫教育校の設置に向けた研究を推進するため二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会が設置された。

この研究会では、学校運営協議会を活用し、保護者、町民、学校の意見を取り入れてその知見や願いを活かしながら、より良い教育環境、教育内容を保障するために、義務教育を連続した9年間と捉え、6歳から15歳までがともに学び合う小中一貫教育の実施と、施設一体型小中一貫教育校の設置にむけた研究協議を行う。

2 研究の期間・内容と研究成果の活用

研究期間は2年間とし、今後、教育内容、施設、予算等を研究・検討していく。研究成果は提言として二宮町に提出する。

3 項目別研究内容と確認事項

項目	回	内 容	確認事項
小中一貫教育の意義の理解	1	○京都大学特任教授 小松郁夫氏による講演『「新しい二宮町型」義務教育の創造』 ○小松氏への質疑応答	・学校形態は変化していく ・家庭教育、学校教育、社会教育のバランスが大事 ・二宮には地域の中に自然、人という財産がある。 ・子供だけでなく大人も学べる学校づくりを・学校運営協議会の役割として、データを活用した学校評価を
	2	プレゼンテーション「小中一貫教育の特長とその成果、課題について」	・地域で子供たちを育てる時代。学校づくりも地域の知見を活かす ・9年間を連続と捉えることで学力面、心の面での成長が期待できるのが小中一貫教育 ・学力不振や問題行動を学校システムを変えることで改善する
	5	義務教育を連続した9年間と捉えることの意義について	○小・中9年間の連続の中で子供の成長を見とり協働で教育活動を進められるという教員・保護者にとってのメリットがある ○常にロールモデルに接することで学べたり、低年齢の子どもの存在が心を安定させたりという子供におけるメリットがある

			<p>○6年間、3年間の区切りにとらわれずに9年間の中で学び直し、学び進めで個に応じた学びを実現させやすい</p> <p>○小中一貫教育が認知能力（数値で計れる能力・学力など）や非認知能力（数値で計れない能力・協力性、主体性など）を高め、結果として学力向上、問題行動の減少などが実現している</p>
海外の教育事情を知り、二宮でめざす教育を考える	3	<p>○講演「デンマークの教育と日本の教育のこれから」 講師：ニールセン北村朋子氏</p> <p>○講演：「諸外国の教育事情」 講師：渡邊恒文氏</p>	<p>○デンマークでは、義務教育を通じて民主主義を教え、公立学校の専門知識と実践への尊重を通して生徒の幸せを深めている。</p> <p>○日本及び諸外国の教育に関するデータをもとに現在の日本の教育の立ち位置を理解した。</p>
	5	講演のふり返りと二宮町の小中一貫教育で生かせることを協議	<p>○自尊心、自己肯定感を育てる○自主性、主体性を育てる○ICT教育、英語教育の充実○キャリア教育の充実○多様性の尊重 等</p>
実践から学ぶ	4	義務教育学校 品川学園を視察	品川学園では施設一体型小中一貫教育校の特長を生かし、切れ目のない9年間で児童生徒が互いに学び合う教育環境を作り上げている。また、コミュニティスクールの機能を活かし、「本物体験」も含むキャリア教育に力を入れている。
	5	視察のふり返りと二宮町で生かせることを協議	○教員の意識変容をもとにした9年間の切れ目のない教育活動○子ども同士、子供と教員が互に見える環境で、近い将来を見て学び合う
目指す子供像と小中一貫教育	2	<p><u>第2回協議</u></p> <p>①二宮町の子供たちの課題は何か</p> <p>②9年間の義務教育で育てる子供像</p>	<p>キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情・自己肯定感 ・自分の強み、良さを生かし発揮する ・将来に向けてのキャリア意識を持つ ・自分のやりたいことを実行、実現 ・大志を抱ける ・内向きではなく広い視野を持つ ・9年間の繋がりを活かす・英語教育 ・キャリア教育 ・ICT
	5	<p><u>第5回協議</u></p> <p>①講演と視察を経て「育てたい子供像」「小中一貫教育校でできること」の検討協議</p>	

開催日 第1回：2022年6月20日 第2回：9月21日 第3回：12月9日 第4回：視察 2023年2月9日 第5回：3月3日